



「ヤシの木の向こう側と私たち」

伊東 万葉

昔、「地球にやさしいって？」というワークショップに参加した。そのとき、日本で使用するパーム油の8割はマレーシアからのものであると聞いた。パーム油を得るためには、木を伐採する。森林伐採が進むと、環境の面では悪影響だ。しかし、伐採することをやめれば、伐採する仕事に就いている人の収入はなくなる…。そこには大きなジレンマがある。今回、実際にパーム油の木（ヤシの木）がある畑に足を運び、自分の目で見て、お話を伺えたことは、とてもよい機会になった。

マレーシアのヤシの木は、日本のヤシの木と違って、赤い実ができる。収穫された赤い実は、良いもの、悪いものに選別され、パーム油の原料になるらしい。ひとつひとつ丁寧に作業が施されていることを知った。カカオの実と同じだ。そこにはたくさんの人の手と時間がかけている。パーム油は適正な価格で取引されているのだろうか。去年フェアトレードについて調べた時のことを思い出した。

パーム油は、お菓子やクリームなど、用途の幅が広い。私たちの生活には欠かせない。しかし、私たちは、そのことに思いを馳せることはほとんどない。私たちの生活を支えるために、自国の環境を差し出している人がいるのではないか、洗剤などで「パームヤシを原料としているので地球にやさしい」というキャッチフレーズを見たことがある。「自分の目の前にある環境を守ること」の裏にある現実。私たちにはそのことを想像する力が必要だ。